

様式第2号（第8条関係）

審議会等会議録

会議の名称	令和5年度第1回加須市総合振興計画推進懇話会
開催日時	令和5年8月17日（木） 午後1時30分～
開催場所	加須市役所 本庁舎 5階 504・505会議室
議長氏名	石上泰州委員
（出席）委員	（会長）石上泰州委員 （副会長）並木秀夫委員 小川達男委員 鈴木君恵委員 荒井麻琴委員 杉沢正子委員 山下雄希委員 眞中 紀委員 尾高幸江委員 内田親委員 市川邦夫委員 植竹公子委員 角田大輔委員 有田親史委員 高柳正行委員 伊部忠之委員 （16名）
欠席委員	福島祐一委員 武正裕和委員 井上進委員
会議次第	第2次加須市総合振興計画の実施状況について
会議資料の名称	・次第 ・委員名簿 ・加須市総合振興計画推進懇話会設置要綱 ・はじめに ・【資料1】第2次加須市総合振興計画 ～令和4年度の取組状況～ ・【資料2】加須市総合振興計画 前期基本計画 令和4年度 全事業達成度状況のとりまとめ
会議の公開又は非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴者の数	0人
説明者の職・氏名	副市長：萩原利一 環境安全部長：増田浩之 経済部長：駒宮敏之 こども局長：野本朋子 福祉部長：野崎修司 健康医療部長：松永勝也 生涯学習部長：斉藤千恵美 学校教育部長：中島高広
事務局職員職・氏名	総合政策部長：石井幸子 政策調整課長：鳥海和彦 同課主幹：金久保栄子 同課主査：大竹純哉 同課主任：古本有里沙 同課主事：荒井孝文
会議録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録 <input type="checkbox"/> 全文記録
その他必要な事項	

様式第 3 号（第 8 条関係）

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
事務局	【開会】
市長	【委嘱状の交付】
事務局	【委員の紹介】
会長	【あいさつ】
市長	【あいさつ】
事務局	【副会長選任】 副会長が空席である。これまで自治協力団体連合会会長に就任いただいております、事務局としては自治協力団体連合会会長並木委員にお願いしたいと考えているがいか がが。
各委員	異議なし
副会長	【あいさつ】
事務局	以降の進行は、会長にお願いする。
石上会長（議長）	【議事進行】 第 2 次加須市総合振興計画令和 4 年度の取り組み状況について事務局から説明をお願いします。
政策調整課長	資料に基づき説明
石上会長	事務局説明を受けて、何か質問・意見等はあるか。
市川委員	「やや遅れている」と「大幅に遅れている」が多い。対策または改善策をどう考えるか。
事務局（総合政策部長）	毎年、評価・見直しにより、遅れを取り戻す工夫をして、「分析を踏まえた改善点」の欄のとおり、特に「やや遅れている」や「大幅に遅れている」ものは、改善していく。
石上会長（議長）	「概ね達成」が 80%以上、それを下回ると、「やや遅れている」或いは「大幅に遅れている」という評価になる。 「やや遅れている」、「大幅に遅れている」が 3 割強で、それぞれ事情があるが、説明とどのような改善・検討して

	<p>いるかの記載があるので、あわせて参照いただきたい。</p>
杉沢委員	<p>指標の評価方法の「目標達成」について、「事業実施による効果があられた」という文言がある。何ををもって効果があられたか、不明なところがある。何ををもって測るのか。</p>
事務局（総合政策部長）	<p>市民の皆様施策の成果が分かりやすいように、数値で効果が見えるようにKPIを設定している。</p> <p>ご指摘の通り、ものによっては、その施策の成果として、適切ではない、分からないという指摘はもっともである。今後も、よりよい指標（KPI）が設定できるように努めていきたい。</p>
石上会長（議長）	<p>その他何かあればご意見いただきたい。</p>
事務局（総合政策部長）	<p>総合振興計画は市政全般にわたるので、意見をいただけたらありがたい。</p>
石上会長（議長）	<p>個別の案件についても是非お願いしたい。</p>
杉沢委員	<p>①資料1の12ページ、NO2「要介護認定率」について。</p> <p>ブロンズ会議の地域格差がとても大きいと感じている。地域格差をどのように埋めていくか。あり方をどうするのか。また、ブロンズ会議開催だけでは、要介護認定率の目標達成はできないと思う。</p> <p>ここに来て、キーワードとして、フレイルという言葉が出てきているのでサルコペニアフレイルという言葉が出てきているので、そのことについて、市民の方々に知っていただくというような方策が必要かと思う。</p> <p>②12ページ、NO3「自主防災組織に対する自主防災訓練実施数の割合」について。</p> <p>自主防災組織の数は、まず幾つかを教えていただきたい。コロナウイルス対策のため、計画倒れになっていることが多い。</p> <p>8月26日の総合防災訓練も中止となり、とても残念。コロナだから災害が起きないわけではない。コロナだからこそ、或いはいろいろな壁があればあるほど、それに対応した防災の対策が必要だと思う。</p>
事務局（福祉部長）	<p>①ブロンズ会議は、高齢になっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるように地域で支え合う仕組みとなるもの。市内に16の社会福祉協議会の支部エリアがあり、全て設立された状況にある。</p>

	<p>活動の格差については、現在、市の担当、また社会福祉協議会の地域支援コーディネーターが地域に入り、いろいろな地域の団体の中で結びつける役目を果たしており、今後もそうした中で活動の活性化につなげていく。</p> <p>ブロンズ会議の活動として、デマンドタクシーの申請のお手伝いや、マイナンバーカードの出張申請のサポートなどいろいろあり、今特に市全域的に動き出しているのが移動スーパーの展開である。</p> <p>要介護認定率の目標達成については、高齢者人口の増加とともに上がっていくことが見込まれる中、ブロンズ会議をはじめ、いろいろな取り組みを織り混ぜながら、病気の予防や、食生活の改善、運動習慣の定着など、様々な取り組みによって、健康寿命の延伸を進め、元気な高齢者を増やすことが、大事なことだと考えている。</p>
事務局（環境安全全部長）	<p>自主防災組織の数は、179の自治協力団体に対して166の団体で158の組織の状況である。</p> <p>騎西・北川辺・大和根は、それぞれ100%の組織率、加須地域は自治協力団体数に対して、自主防災組織ができていない地域がある。</p> <p>8月26日の総合防災訓練は、その構成団体・参加団体である医師会から、「この災害級の暑さは、参加される方々にとって非常にリスクが大きい」と意見があり、市も医師会からの意見を踏まえ、参加団体の皆様方の打ち合わせ会で、団体の長の意見も聞き、了承を経て延期させていただいた。災害はいつ起こるかわからないというのは、その通りである。</p> <p>自主防災訓練の実施割合について、コロナ禍ということで低くなっているが、今後はそれぞれの自主防災組織で、防災訓練を、積極的にやっていただけるよう働きかけをしていきたい。自主防災組織または地区防災組織など、小さいコミュニティで、皆様方が防災訓練をしていただくことができるように働きかけをして参りたいと考えている。</p>
尾高委員	<p>自主防災（7月2日）の件について。</p> <p>訓練の対象地域の避難者については、それぞれが何人かずつ民生委員を伴ってという訓練であった。こちらの質問に対して、市の職員は答えることができない状態だった。</p> <p>ある地区では、「ここに避難してくる方が多くなった時はどうするのか」、「他の地域の方たちはここには絶対来ないのか」という質問に対し、答えを出せなかった。</p> <p>避難者に対してのことだけでなく、地域のことについて知っていただきたい。</p> <p>市の職員は、担当であるにもかかわらず、「ここに来たのが初めて」という状態で、地域のごことは一切知らずにその</p>

	<p>担当の施設だけのこと、施設の職員とだけ話をしているような状態だったため、訓練の意味がないと思った。</p> <p>これについては、どのように対応するか尋ねたい。</p>
事務局（環境安全全部長）	<p>資料1の22ページ、26番。</p> <p>7月2日は、この総合水害広域避難訓練のことだと思うが、暑い最中で1時間を目安に実施するという共通認識の中で実施した。</p> <p>訓練は、8月26日も含めて7月2日の総合水害広域避難訓練についても、今後の訓練のあり方、夏の時期や、参加する人など、今年度時間をいただきながら中身を精査させていただきたいと考えている。</p> <p>次年度以降は、ご指摘いただいたような点がないように工夫をしていきたいと考えている。また、今ご指摘いただいた担当がいたかと思うが、通年でやっていたものではなかったもので、そういった担当もいたかと思うが、それらも含めて、見直しを行いたいと考えている。</p>
尾高委員	<p>見直しは、大いに助かるが、市の職員の、4月・5月の言葉で、最も困る言葉は、「来たばかりなので、よくわかりません」という言葉。</p> <p>たとえ4月でも5月でも人事異動があった後、初めて配属されたところであっても、市の職員である以上はそれなりの知識を持って訓練等には参加していただきたい。</p> <p>いざというときに役立たないと駄目である。我々はそれなりに覚悟して出かけている。訓練にはどんなことが必要かということをもっと、きちんと調べながら持参するものを皆さんで話し合っって持っている。市の職員が、ここの責任者ですという以上はそれなりにきちんと対応できるようにしていただきたい。</p> <p>これからは是非、前もって話し合いなり知識を持って市の職員の方が来てくださると嬉しい。</p>
事務局（こども局長）	<p>こども局が避難所の運営を担当しており、班員の割り当て、班員の研修等も行っている。大変厳しいご指摘をいただいた。市の職員ほぼ全員が当たっており進めている。</p> <p>年度が始まってすぐに割り当てと、班長の研修会も行い、説明会も行っている。</p> <p>それが、まだ徹底されてなかったことが明らかになった。いつ何時、被害、また水害、災害が起こるかわからないので、中心になる市の職員がそのような状況では逃げられるものも逃げられない、安全もキープできない。もう一度認識を新たにしながら、市の職員としての意識づけを、これからも行って参りたい。地域の方の声があったら、こども局や危機管理防災課にお声掛けいただきたい。よりよ</p>

	<p>い運営体制、また、確実な運営体制を構築していきたいと思う。よろしくお願ひしたい。</p>
並木委員	<p>不動岡2丁目の自主防災会では、防災倉庫を、全部補助金をいただいて作った。</p> <p>先日、自主防災会で炊き出しをやることになり、不動岡コミュニティセンターを利用し、カレーを作ったが、皆さん、実際に起きたら、こんな状況ではできないという話になった。ある程度施設の内容が分からないと何をやっていいか分からないと思う。今回の台風6号・7号についても、島根県など、随分大きな被害であった。</p> <p>加須も地域によっては、水害はあまり影響しない所もあるが、それ相応な訓練のやり方もあると思う。ビデオか何か、地域に提供してもらい、研修会やいろんな場を作っただけであればいいと思う。何年か前に、自治会でも茨城県の常総市の水害があった所に視察に行った。二階に上がった人は、どのように上がったのか。そういう話も出た。はしごや橋を使って上がったとか、ビール瓶の箱を使って上がったとかいろんな話がある。現場の声は大事だと思った。そういうビデオなどがあれば、各地域に提供してもらえれば良いと思う。</p>
事務局（環境安全部長）	<p>貴重なご意見をいただいた。</p> <p>防災、防災と言われても何をやっていいか、というのはある。市には、危機管理防災課があり、防災講座という出前講座もやっているのので、ぜひ活用していただきたい。</p> <p>また、今お話しいただいたようなメニュー化したもの、マニュアルなどを作りながら、自主防災組織に周知を図っていききたい。</p> <p>なお、今年度から、各自治会の皆様にも依頼をかけたが、防災士養成講座、養成研修会というのを公費でやる予定である。各行政区に1人の防災士を目指している。</p> <p>そういう方が地域の中心になって、自主的に防災訓練ができるような、人材の育成にも努めていきたい。引き続き、提案があったら、お願ひしたい。</p>
市川委員	<p>少子化対策について。</p> <p>明るいう大越だと思っているが、今、暗いう大越になりつつある。今年の運動会時の62名の生徒は、来年は44名。</p> <p>水深・大桑・三俣のように、家が建てば、人口も増えるだろうし子供も増える。現に私の家の裏は田んぼだったが、家を建てたら13軒入って子供がいて、学童の列ができて通学している。できれば私たちも後継者のいない、ただ税金ばかり払ってあそこを空き地にしておくのも心配で、これからのことを考えると、人が来なくゴーストタウン</p>

	<p>ンの大越になってしまう。</p> <p>少子化を何とか防ぎたいと思っている。それが無理であれば、統廃合も考えるのだろうか。考えなくてはならない時期に来たのかと心配である。</p> <p>これについては、土地の利活用について、もう少し人が集まるような土地にすることで少子化も防げる。こうすることで、ゴーストタウンの大越も、また明るい大越に戻るような感じがする。これについて聞かせてほしい。</p>
事務局（経済部長）	<p>地域の活性化という中の一つの視点で申し上げる。大越は、農地が多く農業の振興という観点からお話をさせていただくと、まず農家の方が言われている通り、米価も下がってなかなか収入が入らない。従って農家を離れる方が多い。そういう流れの中で、市は、農業の振興に向けた施策を行っている。</p> <p>具体的には、先ほど申し上げたように、担い手がない中でどうやって確保していくのか、担い手を呼び込むためには、農業の基盤の整備が必要になる。さらに集約集積をいかに進めていくか。このような問題を解決するために、現在、複合的に事業を進めている。これは一つの視点であって、この他にも人口減少という中で、各種、市の施策として、現在進めている。</p>
事務局（生涯学習部長）	<p>小中学校の統廃合・再整備について、近隣市で既に統廃合が始まっている。本市でも、市川委員がおっしゃった通り、少子化を踏まえ、いよいよ考えていかなければならない時期に来ていることは、重々承知している。今、学校に通っている子、また、0歳から6歳といった今後6年間で小学校に上がる人数を勘案しても、現在の小学校22校、中学校8校、全てで30校ある学校の再整備を検討していかなければならない時期に来ている。教育委員会では、この市の現状を踏まえながら、今後のあり方の研究を始めている。地域の皆様のご意見等も伺いながら進めていく考えでいる。その時にはよろしくお願ひしたい。</p>
事務局（副市長）	<p>市川委員から、大変難しい課題、ご質問を受けた。この地域全体が活性化していきたいという考え方は当然ある。</p> <p>ただいろいろな土地利用の規制等が多々ある。加須市はご案内の通り、開発ができる市街化区域、開発を抑制する市街化調整区域がある中で、圧倒的に開発を抑制する区域である。市街化調整区域が圧倒的に多い状況で、その中でもお話のあった水深地区、或いは大桑地区等々については、緩和をし、都市計画法の緩和に基づいて、家が建つような状況になっている。大越地区にもそういう地区はあるが、ただ場所的には、なかなかそこに家が立地しないとい</p>

	<p>うのも現実的にある。</p> <p>この課題は、大越地区に限らず、加須市の中でも同じような課題がある。今後その規制をいかにクリアできるかというところも含めて、市全体で検討していかなければならない課題ということは重々認識しているが、今即答できるような効果的な対応策については、残念ながら見当たらず、引き続き検討を続けていきたいと思っている。</p>
杉沢委員	<p>農業の問題で、ぜひ頑張ってもらっしゃるので一言、ご意見いただきたい。(角田委員へ)</p>
角田委員	<p>住宅が多くなってきているので、農業は逆にやりにくい状態である。県外から来た人たちが、クレームを言うてくる。一方で昔からいる人たちは仕方がない、時期的なものだからと、我慢してくれる。県外から来ている方々に、農業に対しての周知がまだ浸透しておらず、こういう仕事をしているというのを、まだ分かってもらってないと感じる。大越は田んぼがいっぱいある。作業場を作るのは、ほこりが出るので、家がないところで作りたいと思う。私は、拠点がある街中のため、移動することはできないが、農業をする人たちをどの地域に分散させてあげられるかも大事なことだと思う。</p> <p>加須市が、今この辺をやる人がいないので、この辺でやる人がいないか。田んぼではなくて畑をやりたい人に、こういう作物をつくれれば、補助金がもらえるなど、収入を上げられるなどの情報を教えてあげて、もし県外からやりたい人がいるのであれば提案してみる方法もある。</p> <p>礼羽の用水路、お落としについて。古いものが結構ある。長年使っていると、田んぼの水がしみて隙間から水が漏れてくる。場所によっては穴が空いて人が歩くと沈む。1回経験したが危ない所が結構ある。一昨年穴があいていたのもある。パイプの外側から、水が浸透して崩れて、違う落としの壁の隙間から漏れている。直してもらえないのか聞くと、区長に報告してくださいとなる。なおさら、農業の人たちもやりづらくなる。全部を直せとは言わないが、古くなったところを少しだけでも、隙間でも埋めてもらいたい。</p>
事務局（経済部長）	<p>市内、6,000ヘクタールほど耕地面積を抱えている。新規参入も含め、こんな土地がここにあるなど、新たな農業者の方へ情報提供を、まずは若手の方に、提供できるように、今後機会を設けていきたいと考えている。その状況を踏まえて、情報提供の対象を広げていきたいと考えている。自治会要望について、先ほど申し上げたように、6,000ヘクタールほどの耕地面積を抱えていると、それなりに農</p>

	<p>業用の道路、農場の作業用に使う道路、それから、排水路用水路等も多い。かなり延長は長いと思われる。全部対応できれば良いが、先ほど申し上げたとおり、量が多く、基本的には自治会要望を受け、優先度を決めて対応をしている状況である。どうしても農村地域となると、現状のシステムでは、優先度が低くなってしまいう現状にある。できるだけ営農しやすいように、市も努力をしていきたいと考えている。ご理解をお願いしたい。</p>
<p>事務局（総合政策部長）</p>	<p>自治会要望について、並木副会長がおっしゃっている通り、自治協力団体は協働の最強のパートナーとして、いろいろお世話になっている。水路、道路、それからカーブミラー、防犯灯までいろいろな要望を自治会に取りまとめでいただき、夏に区長に持ってきていただいている。</p> <p>市は優先順位をつけており、予算時も、自治会要望があった案件は、優先順位のポイントを上げて、予算化をしている。今後もそのような流れで要望していただければと思う。</p> <p>ただ、大変心苦しいが、自治会要望は、要望の達成率がこのところ3割を切っており、自治会の皆さんが最強のパートナーと言いつながらにも3割ぐらいしか実現できていない状況で、大変心苦しいが全体の中では、優先順位は高くしているので、今後ともよろしくをお願いしたい。</p>
<p>杉沢委員</p>	<p>①資料1 21ページ、25番。 消費生活講座参加者数が指標になっている。 生活の安定安心の促進の目標に対して、講座の回数、参加者数が載っている。これは、加須市が主催で行った事業についての参加者数のみである。「くらしの会」でも、消費生活講座をやっている。令和4年度の、消費生活講演会、消費者力アップセミナーの3回、それをこの実績の822に合計すると、合計が1,251人になる。割合にすると、91.3%になる。</p> <p>「くらしの会」の事業は、加須市も後援になっているので、市と共同でやったという事業で解釈すると、ここは十分に「目標達成」という評価をしていいのではないかと思う。</p> <p>②25ページ 36番について。 交通安全対策の充実の、人身事故発生件数を少なくする目標について、横断歩道での一時停止というのが加須市では、まだまだ徹底されていない。</p> <p>市民プラザかその前の横断歩道は、みんなで渡ろうとしていても、その前をすごい勢いで走っていく車がある。その車が、社会福祉協議会の車だった。横断歩道での一時停</p>

	<p>止は、栃木県は徹底しており、きちんとみんな止まる。ほとんど人が通っていないようなところでも横断歩道を見ると徐行する。PRが行き届いて訓練している。みんなに声を掛けて運動をすれば、横断歩道では、一時停止が徹底されるので、講座や講演等で、そういう啓発をしているということが書いてあるが、横断歩道一時停止というのを徹底してほしい。</p>
事務局（環境安全部長）	<p>36番の横断歩道の件について、市では横断歩道の徹底は、市の重点項目である。交通安全運動のキャンペーンでは、三つの重点項目を掲げてキャンペーンの中で周知を図り、徹底している。今年度は、春・夏に、「自転車におけるヘルメットの着用」と「横断歩道の一時停止」などを実施している。</p> <p>これらは、重点項目として昨年度から引き続き実施しているが、まだ周知がされていないところがあるかと思う。引き続き、ドライバーの皆様方に協力していただけるように周知を図っていきたいと思っている。</p>
事務局（副市長）	<p>消費生活講座の関係について。</p> <p>市民相談室が実施しており、杉沢委員がおっしゃったことはありがたい意見と感じた</p> <p>指標は市の中で実施した部分だけのため、団体の皆さんが実施していただいた部分も含めて捉えれば、そのとおりである。その辺も含めて、今後指標のあり方等について、ご意見を参考にさせていただきたい。</p> <p>また歩行者の優先、横断歩道内の歩行者の優先の問題は、市の交通安全対策の一つの大きな柱になっている。それが浸透していないことはその通りだと思っている。市役所の前の横断歩道もほとんど止まらない。このようなことも含めて、より周知ができるように工夫していきたい。</p>
石上会長（議長）	<p>（これ以降、そのほか意見等なし。）</p> <p>以上で本日の議事は終了とする。</p>
事務局	閉会
<p>会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。</p> <p>令和 5年 9月 6日</p> <p>署名 <u>石上 泰州</u></p>	